

社会科学習指導案

単元名 「国の政治のしくみ」〔学指要領：G(2)、ア、(ウ)〕

令和〇年〇月〇日(〇) 第〇校時 〇〇〇〇教室

〇〇立〇〇中学校 3年〇組 指導者 〇〇 〇〇

I 単元の構想

1 単元の目標及び生徒の実態

	目 標	児童(生徒)の実態
知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> 国会、内閣、裁判所の役割について、それぞれの機関のしくみと仕事の内容を理解するとともに、それぞれの機関の相互の関連性について、さまざまな資料から調べ、まとめることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> さまざまな資料を検討し、それを基に情報を読み取り、それぞれのしくみや役割について理解することができる力が付いている生徒が多い。
思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none"> 国民主権を守るという観点から、国会、内閣、裁判所の果たすべき役割と、それぞれの機関が抱える課題について多面的・多角的に考察し、表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 諸資料に基づき、それぞれの事象について比較、検討しながら各課題を見出すことができる生徒が半数程度いる。 他者との意見交流を通して自分の考えを広げたり、深めたりすることができる。
学びに向かう力、人間性等	<ul style="list-style-type: none"> 国会、内閣、裁判所と私たちの生活との関わりに着目し、将来、裁判員に選任される可能性があることを踏まえ、裁判の在り方や裁判員制度のしくみについて主体的に考察し、追究しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 前単元の「民主政治と私たち」の学習では、毎時間学んだ内容を自分の言葉で振り返ることができた生徒が多くいた。しかし、それらを新たな学びにつなげたり、社会に生かそうとしたりする生徒は少数であった。

2 評価規準

知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 国会、内閣、裁判所の役割について、それぞれの機関のしくみと仕事の内容を理解するとともに、それぞれの機関の相互の関連性について、さまざまな資料から調べ、まとめている。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 国民主権を守るという観点から、国会、内閣、裁判所の果たすべき役割と、それぞれの機関が抱える課題について多面的・多角的に考察し、表現している。
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> 国会、内閣、裁判所と私たちの生活との関わりに着目し、将来、裁判員に選任される可能性があることを踏まえ、裁判の在り方や裁判員制度のしくみについて主体的に考察し、追究しようとしている。

3 指導及び評価、ICT 活用の計画(全8時間:本時第7時) ※指導に生かす評価○、評定に用いる評価●

時	学習活動	知	思	主
1	<ul style="list-style-type: none"> 国会議事堂の写真や国会議事堂内の中央広間の写真などの諸資料を基に、単元の課題を把握する。(い)(う)(a) 諸資料を読み取りながら、比較を行い、国会の役割と衆議院・参議院の違いと国会の役割について調べ、まとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">単元の課題:国会、内閣、裁判所は、国民主権を守るために、どのような役割を果たすべきか。</p> </div>	○		○
2	<ul style="list-style-type: none"> 国会の現状と課題についてグラフなどの諸資料を基に他者と意見交換を踏まえながら考え、まとめる。(い)(う) 		○	
3	<ul style="list-style-type: none"> 内閣の役割としくみについて条文などの諸資料を基に調べ、まとめる。(い)(う)(a) 	○		
4	<ul style="list-style-type: none"> 行政の役割と課題について事例などを参考に他者と意見交換を踏まえながら考え、まとめる。(い)(う) 		○	
5	<ul style="list-style-type: none"> 裁判のしくみと役割について、身近な事例や諸資料を基に調べ、まとめる。(い)(う)(a) 	○		
6	<ul style="list-style-type: none"> 他国の司法制度と比較をするなど、諸資料を参考にしながら裁判における様々な課題を考え、他者と意見交換を踏まえながらまとめる。(い)(う)(a) 		○	
7	<ul style="list-style-type: none"> 模擬裁判を通して、他者の考えに触れながら、自分なりの判決を考える。(あ)(い)(う) 		●	○
8	<ul style="list-style-type: none"> 国の政治のしくみの学習における、単元の課題についてまとめる。(い)(う)(b) 	●		●

*活用する学習支援ソフト等：(あ) オクリンク (い) Google スプレッドシート (う) Google クラブルーム

*活用するコンテンツ等：(a) 社会科 中学生の公民第2章民主政治、(b) アクティブ10公民(nhk for school)

II 本時の学習(7/8)

1 **ねらい** 「公正と公平」「個人の尊重と法の精神」の見方・考え方を働かせ、模擬裁判の判決を多面的・多角的に考察し、議論することを通して、審議の仕組みと裁判員制度の意義を理解できるようにする。

2 展開

【★ICT活用に関する事項】

主な学習活動 予想される児童(生徒)の反応〔S〕	主な発問	○指導上の留意点 ◆評価項目(観点)
<p>1 前時の学習を振り返り、本時のめあてをつかむ。(10分)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p><めあて> 模擬裁判を通して他者の意見と比較し、自分の判決と理由を書こう。</p> </div> <p>S：今は「無罪」にしたけれど、「有罪」の人も結構いるな。自分ももっと深く考えて判決を出すべきだろうな。</p>		<p>○将来私たちもなりうる裁判員や制度について学ぶという学習の見通しをもてるように、本時を学ぶ意義を確認する。</p> <p>○裁判の事例をイメージしやすいように、ワークシートを配布して内容を把握できるようにする。</p> <p>○模擬裁判の争点や視点をもつことできるように、現時点での判決の予想と理由を問いかけ、全体に挙手で示すよう促す。</p> <p style="text-align: right;">【★提示・配布・集計】</p>
<p>2 それぞれの役割で模擬裁判をする。(15分)</p>		<p>○役のある生徒以外は裁判員として参加し、ワークシートに対立する双方の主張を簡潔に整理してまとめるように促す。</p>
<p>3 個人で判決と理由を考え、一人一台端末に記入する。(5分)【★データの記入・保存・提出】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>模擬裁判を通して両者の主張と証人の主張を聴き、どのような判決を下すか理由とともに考えてみましょう。</p> </div> <p>S：被告人が空手の三段有段者であることは、被告自身も回し蹴りを受けた相手がどうなるか分かるし、行き過ぎた行為だと思う。だから傷害致死罪で有罪の懲役5年だと思うな。</p> <p>S：なるほど、証人の話を聞いたら、被害者は友人と揉めていたように見えたと言っていたから、自分とその揉めていた友人をとっさに守ろうとしての回し蹴りであったことから正当防衛とする考えも分からなくはないな。</p>		<p>○模擬裁判の内容を把握し、自分の考えをもちやすくするために、黒板に検察官、弁護士、証人のそれぞれの主張を整理して掲示したり、主張の根拠を補足したりする。</p> <p>○判決と理由を記入する際に考えがもてない生徒には、机間指導の中で、模擬裁判中に記入したワークシートを見直すように助言したり、悩んでいる点を問いかけたりする。</p> <p>○記入が終わった生徒には、一人一台端末を通して他者の意見を自分の意見と比較しながら閲覧するよう促す。</p> <p style="text-align: right;">【★記入・一覧表示】</p>
<p>4 一人一台端末を活用して、グループで交流をし、代表者を選んで共感した理由を考える。(10分)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>グループ内で意見交換をしましたが、なぜその人の判決とその理由が良いと思ったのでしょうか。</p> </div> <p>S：私の視点と違ったところから証人の考えを捉えていた意見もあったな。同じ行為でも見方が変わるな。参考になったな。</p>		<p>○他者との交流を通して考えが広げられるように、一人一台端末を活用して、まずは自分の判決と理由を発表し、それぞれの理由の良いところを伝え合うよう助言する。</p> <p>○生徒が多様な気づきを得ることができるよう、机間指導を行い、自分の理由と比較して異なる見方や考え方に着目して、話し合いを進めているグループを取り上げて称賛する。</p> <p style="text-align: right;">【★一覧表示】</p>

5 本時のめあてに対するまとめを個人で記入し、学習内容を振り返る。(10分) 【★データの記入・提出】

模擬裁判や、友だちとの意見交流を踏まえて、もう一度自分で判決と理由をオクリンクに記入してまとめよう。

S : 始めの判決では無罪という判決を行ったが、模擬裁判での両者の主張やグループでの話し合いを通じて、最終的な判決をする際には有罪判決に変わった。改めて様々な視点を取り入れた判決が必要だと感じた。もし私が将来裁判員になった時には、様々な立場からの主張をよく聞き、何が正しいのかを整理しながら判決を下したいと思った。

○他者の考えに触れながら、慎重に審議することが大切だと感じられるように、最後にもう一度、個人で判決を出し、理由とともにまとめるよう促す。その際、さまざまな意見を聞いた上での再審なので、自分の判決や理由が変化しても良いことも伝える。 【★提示・配布・集計】

◆評価項目(思●)

オクリンクの記述内容から、「模擬裁判の判決について多面的・多角的に考察し、理由とともに表現することができるか」を評価する。